

UNMANNED

無人駅の芸術祭 / 大井川

Unmanned Station Art Festival, OIGAWA 2022

2022年2月25日(金) — 3月21日(月) / 25日間

大井川鉄道無人駅周辺及び川越し街道
(静岡県島田市・川根本町)

参加アーティスト

i i (アイアイ) / 上野雄次 / 形狩りの衆 / 木村健世 / 小鷹拓郎 / 小山真徳 / さとうりさ
してかすなかまたち / 杉原信幸 × 中村綾花 / TAKAGI KAORU / 夏池篤 + 山本直
ヒデミニシダ / 森繁哉 / ゆるかわふう + 原正彦 / 力五山 (加藤カ、渡辺五大、山崎真一)

主催 = NPO 法人クロスメディアしまだ 支援 = アーツカウンシルしずおか

協力 = 島田市、川根本町、大井川鉄道株式会社

助成 = 福武財団「アートによる地域振興助成」、島田市アートによる地域づくり推進事業助成

www.unmanned.jp

ヒデミニシダ / ちゅばらのカーテン (UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川)

photo: 鈴木竜一朗 model: 栗下明穂、山田昇、中村和司、児玉徳治

公益財団法人 福武財団

無人駅がひらくと地域がひらく

赤石山脈に端を発し180キロの急流を流れ落ちる大井川。河川に沿って走る大井川鉄道は、かつては地域をつなぐ大動脈でした。産業の変化、交通網の変化という時代の流れの中、つなぐ役割は残しながらも、地域との関わり方は大きく変わっていき「無人駅」という空間が生まれました。

私たちは2018年に始まる、この芸術祭において、二つの無人を考えてきました。一つは「地方の無人化」です。当地をはじめ日本の地方の多くは過疎の進行とともに無人化へと歩んでいます。二つは「都市の無人化」です。人間は都市に集中していきませんが、巨大な情報化と効率化によりこれまで人間が担っていた様々な場所が加速度的に無人化しています。地方と都市と反する局面において同時に無人化が進む現代において「人が減っていく」、その象徴的な場所が「無人駅」だと考えます。

また、私たちはもう一つの無人を経験しました。「コロナウィルスによる無人化」です。新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、世界の在り方は大きく変化しました。会いたい人に自由に会いに行くことも禁じられ、会話が失われ、世界中の至る場所が無人化していきました。

しかし、無人駅を入口として広がる集落には、昔からの暮らし、生活文化が今も息づき、畑仕事や隣近所の集まりを大切に豊かでいきいき暮らす人々が確かに存在します。この人々は生活と芸術を軽快に行き来し、生活と芸術が地続きにつながる場所に暮らしています。それは私たちが、無くしかけてしまった、「記憶」「風景」「営み」です。

人はなぜ生きるのか。コロナ禍の今、その問いはより鮮明に浮かび上がります。UNMANNED (アンマンド) は、無人の、という意味。現代社会が忘れていた豊かさの意味や人間の底力の息吹を「無人と呼ばれる場所」からアートを道しるべに感じてください。そして、あなたの目でアートに彩られた新しい日常を発見してください。

UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川

総合プロデューサー&ディレクター

NPO 法人クロスメディアしまだ

大石歩真・兒玉絵美



「ヌクリ里・図絵 —人々の手による、人々の芸術をつくるプロジェクト—その壺」

森繁哉

民俗・歴史の研究者による土地の調査と連携し、抜里地区に住まう人々の手による芸術「田楽舞踏(抜里歌舞伎)」の創作プロジェクト第1弾。抜里集落の様々な拠点で、ダンスを通して、抜里の人々の生活や民話を模写していく。音楽集団が、古典から現代まで幅広い音楽で構成される抜里歌謡をお囃子で担い、音楽劇のように進行していく。



日時：3月21日(月・祝) 13:00～15:00

集合・解散：大井川鐵道 抜里駅

参加費：おひとり 1,000円(高校生以下 無料)

申込：不要・直接現地へ

関連企画「歩き 読み 知る 抜里版土記」

アーティスト、研究者とともに集落を探訪し、潜在するものを掘り起こし、参加者が抜里地区の「地図」を作成していく。ここで展開される「地面歩き」「集落歩き」を、第二弾のプロジェクトで民衆歌舞伎につなげていきます。

日時：3月21日(月・祝) 15:00～17:00 / 場所：大井川鐵道 抜里駅

案内役：森繁哉、星憲一郎(歴史研究者)、早川知子(民俗研究者)

参加費：無料 / 申込：不要・直接現地へ

地蔵まえ4(縫い合わせ)

さとうりさ

昨年度の発表作品が今期開幕中にもお目見えます。さとうりさと集落の妖精達(住民)とオンラインを活用しながら協働で作上げた作品が広大な茶畑の中に浮かび上がります。設置も集落の妖精たちが行います。見ることができたらラッキー!



日時：会期中のお天気の良い日

会場：大井川鐵道抜里駅エリアの茶畑

「ホタルのたまごづくり」

ヒデミニシダ

抜里エコポリスが進めるホタルの森づくり。ヒデミニシダと女子美術大学生有志が看板のリニューアルに加え森への道を光で演出する「ホタルのたまご」の制作を行います。完成したたまごはホタルの季節に森への道を照らします。ぜひ一緒に制作しましょう!

*各プログラム詳細は公式HP参照

日時：2月26日(土) / 時間：10:00～12:00(出入り自由)

会場：インフォメーションセンター(ぬくりプラザ ☎ 島田市川根町抜里320)

申込：不要。直接現地へ

「大井川に橋は架けられるのか」

TAKAGI KAORU

わたしたちは川の対岸に行けるのか? 自分で橋をかけた人は、対岸があること、そこから見る景色が違うことを忘れないでいられます。みんなで協力して大井川に一日限りの「橋」をかけられるかの実験をするワークショップ。

日時：3月20日(日) 13:00～16:00 ※雨天中止

場所：抜里エリア 大井川河川敷 / 参加費：無料

持ち物：濡れてもよい恰好、長靴、タオル

対象：5歳から高校生まで / 定員：20名

申込：公式HPより



「アートプラット/大井川」～ぼくらのまちじゅう文化祭～

芸術祭の会期にあわせ、まちじゅうで文化芸術に触れる機会を作ろう!と様々な団体や市民が多彩なプログラムを主催します。公式イベントと合わせ50のプログラムが!

芸術祭と合わせて参加をすれば、もっと深く地域と人とアートに出会えます。作品鑑賞だけではもったいない!こちらも合わせてぜひ!

*各プログラム詳細は公式HP参照

公式イベントに参加して UNMANNED をもっと楽しもう!

上野雄次

①「川と竹の交響アクション」

上野雄次と日本を代表するディジュリドゥ奏者のGoroによる、神尾駅と眼下に望む大井川河川敷を使った音とアクションの壮大なパフォーマンスです。神尾の成り立ちに深く関わる川の精と竹の精に、ふたりのアーティストがむきあいます。

出演：上野雄次、Goro

日時：3月13日(日) 14:00～15:00 / 場所：大井川鐵道神尾駅

参加費：おとな 1,000円、高校生以下 無料 / 申込：不要。直接現地へ

②「花いけ合戦 島田大会」

花いけのトーナメント戦。競技者は5分間で即興で花をいけます。観客を魅了させたほうが勝ちというシンプルルール。感性、創造性、そして花をいけたいという思いを競います。手に汗握る真剣勝負をお楽しみください。競技者求む!!

日時：2月26日(土) 13:30～15:30 / 場所：大井川川越し街道

参加費：無料 / 申込：不要。直接現地へ(競技者は先着8名)

③「バンブーハウスの花いけパフォーマンス」

地域に群生する竹で茶室に生まれ変わった旧駅舎をつかった花いけパフォーマンス。ザ・みどり探偵団のおもてなしとのコラボレーション企画です。

日時：2月27日(日)、3月20日(日) ①10:40～

②11:40～③12:20～④13:10～⑤14:00～

場所：大井川鐵道 神尾駅



関連企画「ザ・みどり探偵団 ～神さまと巢籠り～」

上野雄次の作品で、お茶と神さまの伝説を楽しむひとときを。お供え物の中で最も大切とされるお米をおにぎりにし、「天神さま」と呼ばれる神さまがいる梅干しをいれたお茶漬を提供します。(※お茶のあおしま茶師が大井川流域で育った茶葉を厳選)



日時：2月27日(日)、3月13日(日)、3月20日(日)

1日5回開催(各回5席、限定25食) ①10:40～②11:40～③12:20～④13:10～⑤14:00～

参加費：500円(ウェルカム緑茶とお茶漬代)

申込：事前予約が直接会場へ <https://reserva.be/eventlabo2018>

※3月13日(日)の⑤14:00の回は実施なし

「公開マスクお渡し & トークライブ」

形狩りの衆

今回、ライフマスク素焼バージョンを制作した方々に、それをお渡し。展示したマスクと顔を並べて、校長先生の思いなどご本人から体験談が聞ける気楽なトークショーです。

日時：3月13日(日) 13:00～13:30

会場：中川根第一小学校(川根本町徳山100)

参加費：無料 / 申込：不要。直接現地へ



「鹿舞」

杉原信幸×中村綾花

川根本町徳山に伝わる「鹿ん舞」の太古の姿をイメージした鹿の帽子と衣装を纏い杉原信幸が舞います。中村綾花(音)



会場 map

日時：2月27日(日) 14:00～

会場：石間家(川根本町野脇954・三津間集落センター南側)

参加費：ドネーション(投げ銭)制 / 申込：不要。直接現地へ



案内人による芸術祭オフィシャルツアー

ガイド付き鑑賞で作品をより深く味わおう!作品のみどころや成り立ち、地域のことでガイドします。当日のご参加大歓迎!

日時：①3月5日(土) ☎ 川越し街道編 ②3月12日(土) ☎ 抜里+α編

両日とも、11:30～1時間程度

集合・解散：①川越し街道・川会所 ②大井川鐵道抜里駅 / 申込：不要。直接現地へ



小山真徳
Koyama Masayoshi

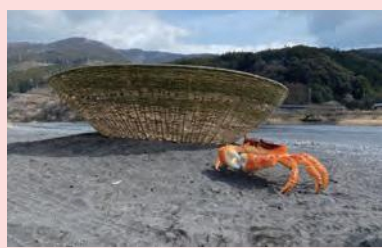


エリア	川越し街道
設置場所	地図② (仲間の宿)

「よそ者」として訪れた土地において普段見出すことのない置き去りにされたものたちに、深い共感を寄せる。声高ではないが、古くから土地に存在する信仰と祝祭の気配を纏いつつ、うらぶれた場所にそれら作品は出現する。

作品タイトル	島田鳶鴉屋 (しまたとびがらすや)
--------	-------------------

江戸時代、大井川は幕府によって架橋を認められず、川越し人足によって旅人は対岸へ運ばれた。大井川が増水し川止めされると両岸の藤枝、島田、金谷、日坂には旅人が滞留し、宿場は大変な賑わいだった。懸命に水流の中を往復した川越し人足たちは、まるで川底を這う沢蟹のようであり、大井川を挟んだ東海道を行き交う旅人は、河原の上空で孤独に弧を描くトンビか、群れなして飛び惑うカラスのようである。作家はかつてそこにあったかもしれない想像上の旅籠を制作する。



「釜と沢蟹」(2021)

カ五山 / 加藤力・渡辺五大・山崎真一 RikigoSan / Riki Kato, Godai Watanabe and Shinichi Yamazaki



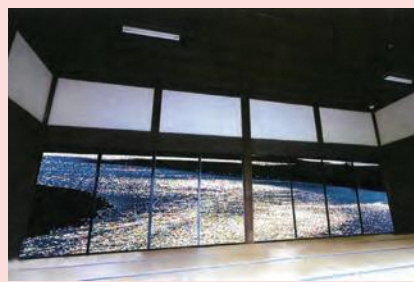
加藤力・渡辺五大・山崎真一によるアートプロジェクトユニット。3人の名前から一文字ずつをとり命名。各々の作品性を維持しながらも三位一体となり、アートを媒体として地域社会の活性化を目指す「ゆるやかな共同体=協働体」である。

作品タイトル	渡る願い
--------	------

大井川の駿河と遠州で同時に展示。川越し街道における「渡る願い」の展示(駿河側)とともに日切駅から日限地蔵尊を結ぶ「表参道」の展示(遠州側)を行う。作家は駿河と遠州を往復しながら日限地蔵尊が地域の人々に信仰される姿に感銘を受ける。大井川橋、蓬萊橋の美しさや歴史的な重み、人々をつなぐ姿を感じる。駿河と遠州の間の「願い」を渡す姿、橋への気概、人足たちの熱気や情緒を改めて表現。川は隔たりをつくるものだが、逆に結びつきを強くするものなのかもしれない。



エリア	川越し街道
設置場所	地図① (川会所)



作品イメージ

エリア	日切駅
設置場所	日限地蔵尊通り沿いの各所



「表参道-願いをつなぐ-」(2021)

川越し街道

小山真徳、カ五山、夏池篤+山本直、小鷹拓郎

UNMANNED

無人駅の芸術祭 / 大井川

金谷駅

新金谷駅

代官町駅



夏池篤+山本直
Asumi Natsuke + Tadashi Yamamoto



エリア	川越し街道
設置場所	地図① (街道内のスペース)

夏池=社会状況や地域の具体的な問題に目を向けながら幅広くリサーチした上で新たな表現を求め、そのプロセスや鑑賞する人達との関わりを大切にしている。山本=静岡県内で美術教師として生活する傍ら、インスタレーションを中心とする美術家としても活動している。夏池氏や形狩りの衆との芸術活動を通じてアプローチを開始した。

作品タイトル	続々・川狩り (Cleaning & Reusing)
--------	-----------------------------

2019年無人駅の芸術祭で発表した「続・川狩り」(筏流し)は、大井川上流で伐採された材木が島田の向谷等まで河川により運搬されるプロセスを追体験する作品。今回は流れ着いた材木を陸揚げし、建物に変えていくプロセスを作品化するもの。大井川に散乱する流木で新たな川会所を制作。中には流木による蓮台越し・渡舟・お茶をたてる様をイメージしたオブジェを配る。



作品制作中の様子

小鷹拓郎
Takuro Kotaka



エリア	川越し街道
設置場所	地図② (十番宿) (会期中変更あり)

作品タイトル	インドネシア人技能実習生、河童の狩猟技術を学ぶ
--------	-------------------------

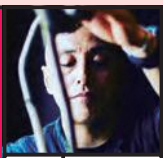
1984年埼玉県生まれ。アーティスト、映像作家。国内外の噂話や伝説を題材にして現実の社会問題を反映させるプロジェクトを発表。2017年文化庁新進芸術家海外研修員、2019年ポーラ美術振興財団在外研修員。現在は埼玉県とインドネシアを拠点に活動。

静岡県内で暮らすインドネシア人技能実習生が、猟友会や笹間神楽保存会の人々と共にコロナ特効薬「河童」の狩猟を試みるモキュメンタリー映画。ユーモラスで人間味あふれる高齢化社会、外国人技能実習生制度の問題、コロナの影響を受ける地域社会などが描き出される。第16回ジョグジャ・ネットパック・アジア国際映画祭2021 正式招待作品(インドネシア)2021年/6K/25分/フルカラー
 <上映会場>
 2/25~3/6 十番宿(川越し街道)
 3/7~3/21 インフォメーションセンター(抜里)



作品イメージ(2021作品再上映)

上野雄次
Uji Ueno



エリア	神尾駅
設置場所	旧駅舎ホーム

1967年京都府生まれ。1988年偶然出会った勅使河原宏氏の展覧会と「創造行為というのは破壊がなければ生まれない」という言葉に衝撃を受け、華道を学び始める。国内の他、インドネシアやタイなどでも創作活動を展開。2005年より「はないけ」のライブパフォーマンスを開始。詩人、写真家、ミュージシャン、工芸家等とのコラボレーションも多数行っている。モノと花材を選び抜いて活けることで独自の「はないけ」の世界を築き続けている。創造と破壊を繰り返す予測不可能な展開は、各分野から熱烈な支持を得ている。

作品タイトル **バンブーハウス／暴走花いけ号の島田バージョン**

老朽化した旧駅舎に、地域に群生する竹を積層させた覆屋を設け、お茶室のようなトリップ空間へと変容させる。入口をくぐって竹の通路を辿ると、そこには異空間が現れる。正面には神尾山の荒々しい山肌とトンネルを見渡す独特の景観を臨むことができ、非日常の体験を味わうことができる。

旧駅舎からホームに至るまでの路地に、割竹をアーチ状に設置し、竹製のトンネルをつくる。トンネルの間隔からは山の青々とした木々や空が見え隠れし、来訪者は心地よく誘導されながらホームへと辿ることができる。ホームの先端近くには、籠上に編んだ竹製ベンチを設置。そこに身を置いてみると、体全体を竹で覆われることとなり、まるで巣ごもりしているような落ち着いた感覚に包まれる。眼下には大井川の雄大な景色が広がり、特別な体験を持ち帰ることができる。また、会期中の週末ごとにライブパフォーマンスやお茶会など様々な企画が実施される。さらに、上野雄次のアートフェスティバルでは恒例となっている車と一体化しているオブジェ作品「暴走花いけ号の島田バージョン」を制作。東京と島田を行き来し、島田の街を走る路上パフォーマンス的作品も展開する。



作品イメージ

パフォーマンス①「川と竹の交響アクション」
3/13(日) 14:00~15:00
場所：神尾駅 料金 おとな1000円(高校生以下無料)

パフォーマンス②「花いけ合戦 島田大会」
2/26(土) 13:30~15:30
場所：大井川越遺跡 料金：無料

パフォーマンス③「バンブーハウスの花いけパフォーマンス」
2/27(日)、3/20(日) 場所：神尾駅
①10:40~ ②11:40~ ③12:20~ ④13:10~ ⑤14:00~

関連企画「ザ・みどり探偵団〜神さまと巣籠り〜」
2/27(日)、3/13(日)、3/20(日)
いずれの日も、1日5回開催(各回5席、限定25席)
①10:40~ ②11:40~ ③12:20~ ④13:10~ ⑤14:00~
※3/13(日)は⑤14:00~の部を開催しません。

*詳細は公式HPを参照

さとくりや
Risa Sato



エリア	抜里駅
-----	-----

設置場所 **地図② (しまの竹やぶ)**

美術作家。東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。神奈川県を拠点に活動。作品を通じたコミュニケーションの可能性を考察する。ワークショップを通じた共同制作なども数多い。

作品タイトル **くぐりこぶち**

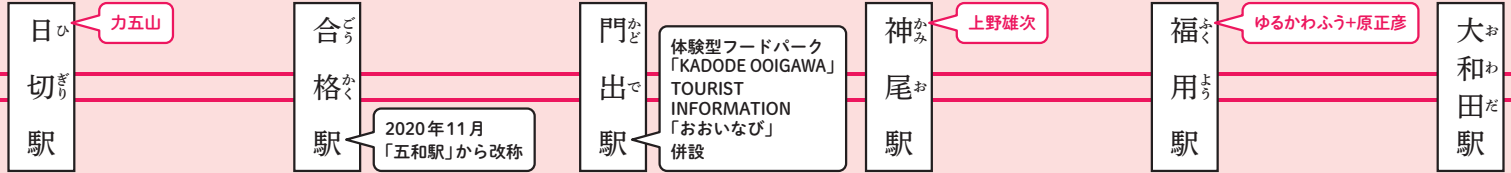
現在では禁止となっている野鳥を獲るための罠「こぶち」を、生きものたちのエネルギーが交差していた場所として捉え、やぶのなかにインスタレーションを制作。「くぐりこぶち」を通り抜けたとき、ほんの少し世界が変わって見えるかもしれません。
※「**地藏まえ3 / サトゴシガン**」(地図①)「**地藏まえ4 (縫い合わせ)**」(茶畑内)も発表



サトゴシガン(2021)



作品イメージ



ゆるかわふう+原正彦
YURUKAWAFU + Masahiko Hara



エリア	福用駅
設置場所	福用駅駅舎

ゆるかわ=発泡断熱材(スタイロフォーム)を用いたオリジナル技法「光彫り(ひかりぼり)」を考案。22年神戸ファッション美術館、23年福岡アジア美術館個展開催予定。
原=建設的なバックグラウンドを基に物事を考えつつ、自身の派遣社員としての立場から、「人」という最も根本的な存在に着目した作品を作成。

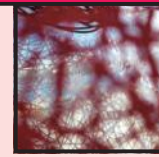
作品タイトル **命の時間、旅の時間**

私たちは毎日トイレトペーパーを消費して生活している。排泄は生きることの根源的な行為のひとつ。一生で消費するペーパーの総延長は、人それぞれ予め決まっているといえるのではないだろうか。トイレトペーパーは、いわば「命の時間」。一方で、鉄道には多くの乗客が経験した「旅の時間」が折り重なる。駅舎内にペーパーを任意に垂らして白い空間を作る。「命の時間」と「旅の時間」をトイレトペーパーに託し、人がいなくなることから生まれる新しい風景を提案。



作品イメージ

TAKAGI KAORU



エリア 抜里駅

設置場所 **地図⑤ (天野邸)**

粘土による器のほか、水引を使った立体造形をつくる。器とは有形無形のものに水を注ぐ(たたえる)ことで、ものの変化や潜在的な物語を捉えることができる道具になると考えている。したがって食器などにとどまらず、さまざまなもの(ときには家屋や人の内面)のなかに器を見出す。自作の磁器を使ったパフォーマンスは、道具と環境の相互作用により、参加者が自身の内なる器の存在に気づく機会になっている。自作の器で食事を提供することで街中にさまざまな関係性と物語をうむスペース「ひととき」を主宰。器の可能性を追求し続ける作家。

作品タイトル **「日々の景色は物語でできている」**

私達が日々見ている風景には、多様な物語が潜んでいる。実際には数多の物語が目前で起きてはいても、そのことに気づかず素通りしてしまうことが多い。しかし、自身のここまで歩んできた道のりを思い描くように目の前にある景色を見てやれば、それは一瞬にして小説よりもはるかに面白い物語となって、私達をあらゆる世界にいざなってくれる。このように世界を媒介してくれるものを作家は「内なる器」と呼ぶ。
作品の会場は、抜里集落のかつて左官屋を営んでいたお宅。大井川の中流に位置し、近景には茶畑と家、そしてさまざまな生業の加工場。そして遠景には雄大な山々がみえる。この場所とその住人にどんな物語があったのかを想像する。時が止まったかのような空間に、粘土、水引を使った造形作品を配置し、そこに潜んでいる物語を描く。ここを訪れる方にも、この場所に流れる時間や作品を手掛かりに、自身の「内なる器」を見出し、それぞれの物語を描いてもらいたい。



作品イメージ

ワークショップ「大井川に橋は架けられるのか」
3/20(日) 13:00~16:00 ※雨天中止
場所：抜里エリア 大井川河川敷 参加費：無料
対象：5歳から高校生まで 定員：20名



*詳細は公式HPを参照



エリア	抜里駅
設置場所	地図④ (川根茶ぬくり園)

建築的な手法をベースに、風景との対話を生む環境インスタレーションを多く手がける。当たり前前にそこにある周囲の環境や、意識しなければ見えにくい事象に眼差しを向け、世界の広がりや、その美しいディテールに触れる作品を制作する。

作品タイトル **境界のあそびⅢ／あそび場のマチエール**

これまで作家が探索し続けてきた島田市、大井川流域の様々な土地で見つけた美しい表層のマチエール(細かな質感)を、デジタルフロッタージュの手法を用いまじもと眺める試み。フロッタージュで用いる墨や鉛筆をデジタルスキャナーに置き換え、スキャナーが持つ光学特製を操作し、現場空間の光環境を含め対象物の表層の質感を面対面で写しとり展示する。
※「境界のあそびⅡ／ちゃばらのカーテン」(地図⑤)も発表



「境界のあそびⅢ」/ 浮かぶ緑劇 (2020)

森繁哉 Shigeya Mori



1947年山形県出身、山形県在住。民俗学者、舞踊作家、「巫座」代表。東北芸術工科大学教授、田園学舎学長歴任後、作家活動に入る。日本古来の身体技法を現代芸術に昇華した数多くの舞台作品で、現代日本の最高の舞踏スタイルを確立したとして、フランス、ドイツなどに招聘される。共演・協力: 星組(星憲一郎/歴史研究者、音楽レーベル「涼音堂」主宰、松村知紗/歌手・舞踏家、「呪文座」主宰、澤田邦弦/津軽三味線・ギター奏者、津軽三味線澤田流名取、早川知子/建築士、民俗研究者ほか

エリア	抜里駅
設置場所	抜里集落

作品タイトル **ヌクリ里・図絵**
一人々の手による、人々の芸術をつくるプロジェクト—その巻

「土地巡り 陽だまりの劇」
—森繁哉ダンス劇場—
開催日 3月21日(月・祝)
集合・解散 大井川鐵道抜里駅 集合13:00~解散15:00
料金 おひとり: 1,000円 高校生以下: 無料
お申込み 不要。直接現地へ

集落の風土や生活様式から生み出されるさまざまな行動・思考というものを、土地の物語を綴ることによって芸術という果実に転化することができるだろうか。民俗・歴史の研究者による土地の調査と連携し、抜里地区に住まう人々の手による芸術「田楽舞踏(抜里歌舞伎)」の創作プロジェクトを立ち上げる。それは、舞とお囃子による抜里の物語、「抜里風土記・絵図」である。今年度は、創作第1弾として、抜里集落の「駅」「茶畑」「裏山」「家の庭(作業所)」などの拠点で、森繁哉がダンスを通して、抜里の人々の生活や民話を模写していく。音楽集団が、古典から現代まで幅広い音楽で構成される抜里歌謡をお囃子で担い、音楽劇のように進行していく。さらに、抜里の人々が語り部、奏でる人、演じる人、呼ぶ人、配る人、売る人など、さまざまな形で参加し、集落は「演戯市場」のような様相を呈することとなる。かつて川筋に発生した歌舞伎の現代版として、川の民による芸能・芸術の立ち上げを試みる。



作品イメージ

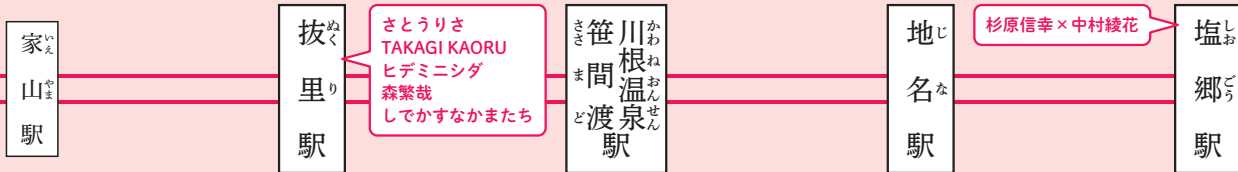
関連企画「歩き 読み 知る 抜里版風土記」

民俗研究者、歴史研究者、抜里地区の語り部とともに集落を探索し、抜里地区に潜在するものを掘り起こし、参加者が抜里地区の「風土記」を作成していく。ここで展開される「集落歩き」を、第二弾のプロジェクトで民衆歌舞伎の因子にしていく。

開催日時: 3/21(月・祝) 15:00~17:00
集合・解散: 大井川鐵道 抜里駅
案内役: 森繁哉、星憲一郎(歴史研究者)、早川知子(民俗研究者)

参加費: 無料

*詳細は公式HPを参照



杉原信幸 × 中村綾花

Nobuyuki Sugihara x Ayaka Nakamura



エリア	塩郷駅
設置場所	三津間集落・石間家

生活と結びつく手仕事を行う帽子作家の中村綾花と美術家の杉原信幸のユニット。土地の記憶の欠片を繋ぎ合わせることで、土地に宿っている形を造形化し、その創作行為から生まれる身体による即興の舞による儀式を行う。

作品
タイトル 鹿ん帽と鹿舞

川根本町の徳山には鹿の顔の帽子を被って舞う鹿ん舞がある。川根本町の狩猟会の協力を仰ぎ、鹿の毛皮を鞣し、鹿の毛皮の帽子と、鹿皮の衣装を制作。空間には集めた古い着物を張りめぐらせ祭りの舞台のような空間を作る。会期中には鹿の繁殖期の鳴き声の音源に合わせて即興の鹿舞を行い古代の鹿ん舞の記憶を呼び覚ます。
※2/27(日) 14:00～パフォーマンス開催 ※設置場所住所:川根本町久野脇954(三津間集落センター南側) 会場map



作品イメージ

木村健世

Takeyo Kimura

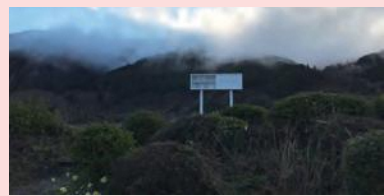


エリア	下泉駅
設置場所	駅ホーム

2001年アートユニット「フタバコン」を結成、以降「まち」にユニークなプログラムを挿入し、場を様々な角度から見つめる「まちづくり一歩手前の行為としてのアート」を多数手がける。2008年より個人名義で活動。近年は人の暮らしが紡ぐストーリーを聞き取りによって集め、場を文庫として捉える作品を展開している。

作品
タイトル 無人駅文庫 下泉

下泉駅にまつわる記憶、思い出、できごと——。一見なにもない無人駅には、その周辺に住む人たちの人生や暮らしの足跡が積層している。目には見えないけれど。インタビューによって集められた「駅の記憶」それぞれを一編の小説として捉え、そのあらすじを記した「無人駅文庫 文庫目録」を駅のホームに置く。そのページをめくるときに浮かび上がり、再生されるシーンはあなたに、どんな駅の風景を見せてくれるだろうか。 ※無人駅文庫 文庫目録はお一人一冊ずつお持ち帰りになれます



「無人駅文庫 抜里」(2020)

ii (アイアイ) / 日高衣紅、戴鈴霏

HIKAKA IKUTAI YIFEI

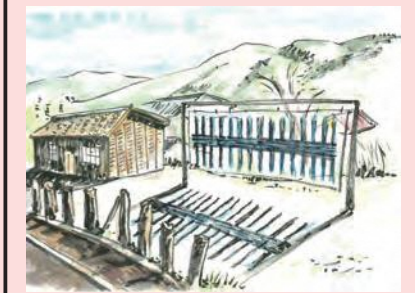


エリア	青部駅
設置場所	青部駅舎

ii(アイアイ)は、日高衣紅(ヒダカ イク)と戴鈴霏(タイ イフィ)からなるアートユニット。中国語、日本語共に「アイ」は「愛」の発音である。版がもつ作用を通して、人と人とを繋ぐ仕事をしていきたいという思いが込められている。

作品
タイトル 青部の吊橋:ふたたび渡す

青部地区には、渡ることでできない吊橋がある。安全上・河川法上の理由から撤去が検討されるも、住民の反対運動により見送られ、通行禁止のまま残っている。しかし、無人の吊橋は今もなお、ゆらめきながら人々の心の中に確かに存在している。今回、青部駅に「青部の吊橋」を出現させることで、吊橋の記憶を呼び起こし、外から来る人とを繋ぎ、青部地区の想いを次の世代にふたたび渡すための新たな橋をつくる。



作品イメージ

下泉駅

木村健世

田野口駅

駿河徳山駅

形狩りの衆

青部駅

ii (アイアイ)

崎平駅

千頭駅

しでかすなかまたち

She de cusu oh chnee + Uma Kinoshita + Tatsuke Abe



エリア	抜里駅
設置場所	地図⑥ (さとのはちのブリキ屋) 地図⑦ (抜里八幡神社) 及び点線 (エリア内各所)

今回結成されたアートユニット。小林由佳を中心に結成された着ぐるみアイドルユニットしでかすおともだち、古着やハギレで小さな立体を制作しプロセスも含めて作品とするインスタレーションを日本各地で展開する安部泰輔、土地の記憶を探る写真家 Uma Kinoshitaの3名で構成。

作品
タイトル くもうきはし

過疎化による地域の維持という大きな課題に直面する場所でき生きと生きる人々。その人々に光を当て、それを見守るように長い年月在り続ける抜里八幡神社の神様のきくみ(タカカミサマ)を制作。タカカミサマが里に降り人々と過ごす不思議な1日を写真を介してあらかず。地域を散策しながらタカカミサマと人々の交流の記録をたどり、最後はさとのはちのブリキ屋に現れた祠でタカカミサマを感じていただきたい。



作品イメージ

形狩りの衆

(代表: 山本直) Shape hunters (Principal: Tatsuki Yamamoto)



エリア	駿河徳山駅
設置場所	川根本町立 中川根第一小学校

形狩りの衆は「顔の家」プロジェクトのために、山本の呼びかけで集まった型取りの技術者集団で、地域住民とライフマスクを製作するワークショップを通じ、そこに住む人々の存在証明としてアーカイブを目指すとともに型取り技術の伝承を試みている。

作品
タイトル 顔の家 駿河徳山

「顔の家」プロジェクトは川根本町を中心に展開し3年目。10代から80代まで様々な人々と交流を深めた。今回は、子どもたちの記憶を通じて「顔の家」を未来に残すことを目指す。変化する子どもたちの顔かたちを手元に残したいというおおかあさんの声に応え、1年後に統廃合が予定される小学校と協働し児童や先生が集う学校の中心に「顔の家」を出現させる。
※会期中は休日・平日とも観覧可能
※3/13(日) 13:00～トークライブ開催



作品イメージ

大井川鐵道の乗車や作品鑑賞をより楽しむための心得

- その① 無人駅エリアは狭い道が多いよ。ゆつくりと余裕を持った運転を。
- その② 駅から会場が少し離れたエリアも。(塩郷駅エリア) 時間に余裕をもつて回ろう。
- その③ 電車の本数が少ないよ! 時刻表を見て効率的に回る工夫を。
- その④ 車やレンタカーとの組み合わせも。駐車場には配慮を。
- その⑤ トイレは目についたら必ず済ませるのがポイント!
- その⑥ 挨拶が鑑賞&旅の基本。地域住民とは気持ちの良い挨拶を!

※大井川鐵道HP <https://daitetsu.jp/>

スタンプラリーで無人駅巡りのススメ

アートに彩られた無人駅フィールドを発見してください。

スタンプラリーでスタンプを全て集めた方には参加賞をお渡しします。また、抽選で10名様にプレゼントが当たります。

①	小山真徳	②	夏池篤+山本直	③	小鷹拓郎	④	カ五山	⑤	カ五山
川越し街道		川越し街道		川越し街道 (抜里)		川越し街道		日切	
⑥	上野雄次	⑦	ゆるかわふう+原正彦	⑧	さとうりさ	⑨	TAKAGI KAORU	⑩	ヒデミニシダ
神尾		福用		抜里		抜里		抜里	
⑪	森繁哉	⑫	してかすなかまたち	⑬	杉原信幸×中村綾花	⑭	木村健世	⑮	形狩りの衆
抜里		抜里		塩郷		下泉		駿河徳山	
⑯	ii(アイアイ)								
青部		<p>●スタンプラリーでスタンプを全て集めた方は、インフォメーションセンターにてご提出ください。参加賞をお渡しします。 ☞ インフォメーションセンター：ぬくりプラザ（島田市川根町抜里320）※OPEN 10:00～16:00 ※休館日あり</p> <p>●抽選で10名様にプレゼントが当たります（プレゼント内容は公式サイトで発表いたします）。 スタンプが押されたパンフレットのお写真の画像を添付して、必要事項（住所・お名前・連絡先・当芸術祭の感想）とともに右記までお送り下さい。☞ プレゼント応募先：info.unmanned@gmail.com ※プレゼントは、芸術祭会期終了後、順次お送りさせていただきます。当選発表は発送をもって代えさせていただきます。</p>							

交通案内

芸術祭開催エリアは、大井川鉄道無人駅及び周辺となります

車 利 用：東 京 I C → (新東名高速道路約2時間) → 島田金谷 I C → 〈芸術祭開催エリアへ〉
名古屋 I C → (新東名高速道路約2時間) → 島田金谷 I C → 〈芸術祭開催エリアへ〉
※駐車場は「エリアマップ (作品設置駅にて配布、公式サイト)」にて確認下さい。

電 車 利 用：J R 東 京 駅 → (東海道新幹線約1時間) → J R 静岡駅 → (東海道線約30分) → J R 金谷駅
J R 名古屋駅 → (東海道新幹線約1時間) → J R 掛川駅 → (東海道線約15分) → J R 金谷駅
※J R 金谷駅で大井川鉄道へ乗換かレンタカー等 → 〈芸術祭開催エリアへ〉

飛行機利用：就航先→富士山静岡空港→(直通バス25分)→J R 島田駅→(東海道線約5分)→J R 金谷駅
※J R 金谷駅で大井川鉄道へ乗換かレンタカー等→〈芸術祭開催エリアへ〉

最新情報は公式サイトから

<http://unmanned.jp/>

FaceBook・Instagram・Twitter で
「UNMANNED 無人駅の芸術祭」を検索



お問い合わせ

UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川
事務局 (NPO 法人クロスメディアしまだ)

静岡県島田市日之出町 4-1-1F (C-BASE 内)
TEL: 0547-39-3666
Mail: info.unmanned@gmail.com

[新型コロナウイルス感染防止対策について]

ご来場される皆さまのご協力をお願いいたします。ご来場、ご鑑賞の際は必ずマスク着用をお願いします。手を触れる作品場所にアルコール消毒を設置しますのでご使用ください。少しでも体調が悪い方、風邪のような症状のある方はご来場をお控えください。



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

アーツカウンシルしずおかは

「アーツカウンシルしずおか」は、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会の様々な分野と文化芸術を結び付け、社会課題への対応や地域の活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。